

# 哲學研究

第四十一卷 第十冊

第四百八十號

昭和三十七年三月一日發行

定言的命法の基礎……………小  
熊勢記

レイスムス……………水  
地宗明

意味の成立……………山  
内得立  
——「意味の研究」其の二——

京都大學文學部内  
京都哲學會

## 京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
  - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
  - (二) 毎年公開講演會を開く
  - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく  
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく  
賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けな  
い  
學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入  
會することができる
- 一、會員は會費として年一、五〇〇圓（會誌十二冊分  
を含む）を前納する
- 但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行  
事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

## 京都哲學會役員

委員

湯本武松服蓮野西長土棚田武高園島重梶柿大臼上井石池有  
 淺吉藤尾部實田谷尾岐瀬中内田原澤山崎井野田賀  
 幸良一義正重又啓雅邦裏知美芳義三太俊雄祐二照義太  
 孫治雄海明康夫治人夫爾郎範郎郎夫郎一一顯尚夫勉仁祐郎

問題に新しい局面を打開しようとするのが我々の目論見なのである。しかし *suppositio* とは何であるか、それは意味の構成原理として如何なる役目を果し得るだろうか、それが我々の次の問題である。(この項了)

(筆者 京都大学名誉教授〔文学部、哲学〕)

次 号 論 文 予 告

Suppositio .....	山 内 得 立
——「意味の研究」其の三——	
自由概念の分析と弁証 .....	平 下 欣 一
カントの形而上学 .....	常 俊 宗 三 郎

客観的規準を求めざるを得ない。そして我々がかかる立場から道徳を問題とする時には、現在ではあまり人気のない実践理性という言葉の意味を、もう一度よく考えてみる必要があるかもしれない。(了)

- (1) G. E. Moore, *Principia Ethica*, p. 10.
- (2) cf. op. cit. p. X, p. 144
- (3) cf. A. J. Ayer, *Language, Truth and Logic*, chap. VI.
- (4) op. cit. p. 112.

(筆者 京都大学大学院文学研究科〔哲学〕博士課程学生)

前	号	目	次
		意味の問題………	山内得立
		——「意味の研究」共の一——	
		苦しみの場所………	森口美都男
		作品の構造………	新田博衛

## 會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年一、五〇〇圓又は半年七五〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社

（振替口座東京九二四七二番創文社）宛に願います  
一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに京都哲學會宛御拂込下さい、（一年分又は半年分、會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

## 京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田  
京都大學文學部内

昭和三十七年 二月二十八日印刷  
昭和三十七年 三月 一日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内  
編 集 代 表

土 岐 邦 夫

久 保 井 理 津 男

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

堀 内 文 治 郎

堀 内 印 刷 所

東 京 都 神 田 三 崎 町 二 一 六

發 行 所

株 式 會 社

創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番

電 話 九 ノ 内 四 〇 〇 八 番

## 註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價一五〇圓、送料・四〇圓）前金にてお送り下さい

昭和三十一年三月二十八日印刷（毎月一回）

THE JOURNAL  
OF  
PHILOSOPHICAL STUDIES  
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLI

March, 1962

No. 10

*The Genesis of Meaning*

— *A Study of the Meanings* (II) —

.....Tokuryu Yamauchi

*Reism* .....Muneaki Mizuchi

*The Foundation of the Categorical Imperative*.....Seiki Oguma

Published Monthly

By

**THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY**

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定價  
一五〇圓

IMB 6427